

●今回のテーマ●
鳥
～翼があったら～

なんだか息苦しい毎日。鳥のように自由に空を飛べたらな、なんて思うことはありませんか？今回は「鳥」にまつわる本を紹介しします。身近にいる鳥たちは、どんな暮らしをしているのでしょうか。夏の空の下、本を開いて鳥たちといっしょに羽ばたいてみませんか？

『わたしが鳥になる日』

サンディ・スターク・マギニス/作
小学館 [K 93/ス]



「わたしは空を飛ぶ。空気に身をゆだねるのはかんたんだ。」デセンバーは、自分を鳥と信じる11歳の少女。背中傷の下から、翼が生えてくる日を待ち望んでいる。里親の家を転々とする中で、動物保護センターで働く1人の女性と出会い…。愛と希望に満ちた物語。

『かもめのジョナサン』

リチャード・バック/著 新潮社
[933/バ]



世界的なベストセラー、『かもめのジョナサン』。著者が九死に一生を得たことから、幻の最終章が加えられた「完成版」。カモメのジョナサン・リヴィングストンは、どんなことよりも飛ぶことが好きだった。仲間を追放されても、速く飛ぶことを追求し続けるジョナサンは…。自由とは、生きる意味とはなんだろう？

『カラスの教科書』

松原始/著 雷鳥社 [488]



なにかと嫌われがちな鳥、カラス。著者はカラス研究の第一人者・松原始さん。読んでいるうちに「カラスも実はカワイイかも？」なんて気がしてくる。カラスの基礎知識はもちろん、Q&A やカラス度診断など、パラパラめくっているだけでも楽しめます。

『イカロス・レポート』

竹田真太郎/著 講談社 [YA 913.6/タダ]



自転車サークルの活動にのめりこんでいた基樹は、友達に誘われ、鳥人間コンテストのパイロットを目指すことに。「お前、俺たちが目指している大会が、『空を飛ぶ大会』だと思っ

『50 とよばれたトキ』

小野智美/著 羽鳥書店 [488]



新米飼育員の中川さんが、とっさに帽子で受け止めた卵から生まれたのが50。戦後の佐渡島で人の手によって育てられる50番目のトキ、50との日々。トキの生態や、佐渡トキ保護センターの人々の仕事がよく伝わってきます。トキへの愛を感じる挿絵にも注目。

『野鳥手帳』

叶内拓哉/文・写真
文一総合出版 [488.2]



242種の野鳥を美しいイラストと写真で紹介。また、どの季節、どの場所で見られるのか、それぞれの鳥の説明にアイコンがついているのでわかりやすい。学校や公園で「あの鳥なんだろう？」と思ったとき、本を開いてみて。

ニュース！

ビブリオバトル
“鳥”



8月7日(土)にビブリオバトルが開催されました。今回はユースと同じく“鳥”がテーマ。発表された本をご紹介します。

- 『カラスのシルバースポット』[シートン動物記] アーネスト・T.シートン/文・絵 他 童心社 [K 480]
- 『タンタンタンゴはパパふたり』 ジャスティン・リチャードソン/文 他 ポット出版 [E/コ]
- 『月夜のみみずく』ジェイン＝ヨーレン/詩 偕成社 [E/ヨ]
- 『飛ぶための百歩』 ジュゼッペ・フェスタ/作 岩崎書店 [K 97/ワ]
- 『コウノトリになったカリフの話』 (『隊商』ウィルヘルム・ハウフ/著 偕成社 [K 90] より)

きたまちY Aひろば
活動報告

ブック de トーク
& 2021Y A夏袋



7月18日(日)に今年度最初のきたまちY Aひろばを開催することができました。

第1回目のひろばは、今年度の活動計画を立て、「ブック de トーク」(紹介型読書会)を行いました。今年から新たに活動に参加して下さった方もいて、うれしい限りです。

「夏休みにオススメの本」をテーマに紹介しあい、POPを作ってもらいました。紹介本は中身が見えないようラッピングして、毎年恒例“Y A夏袋”として7月24日から図書館で貸出をしました。

